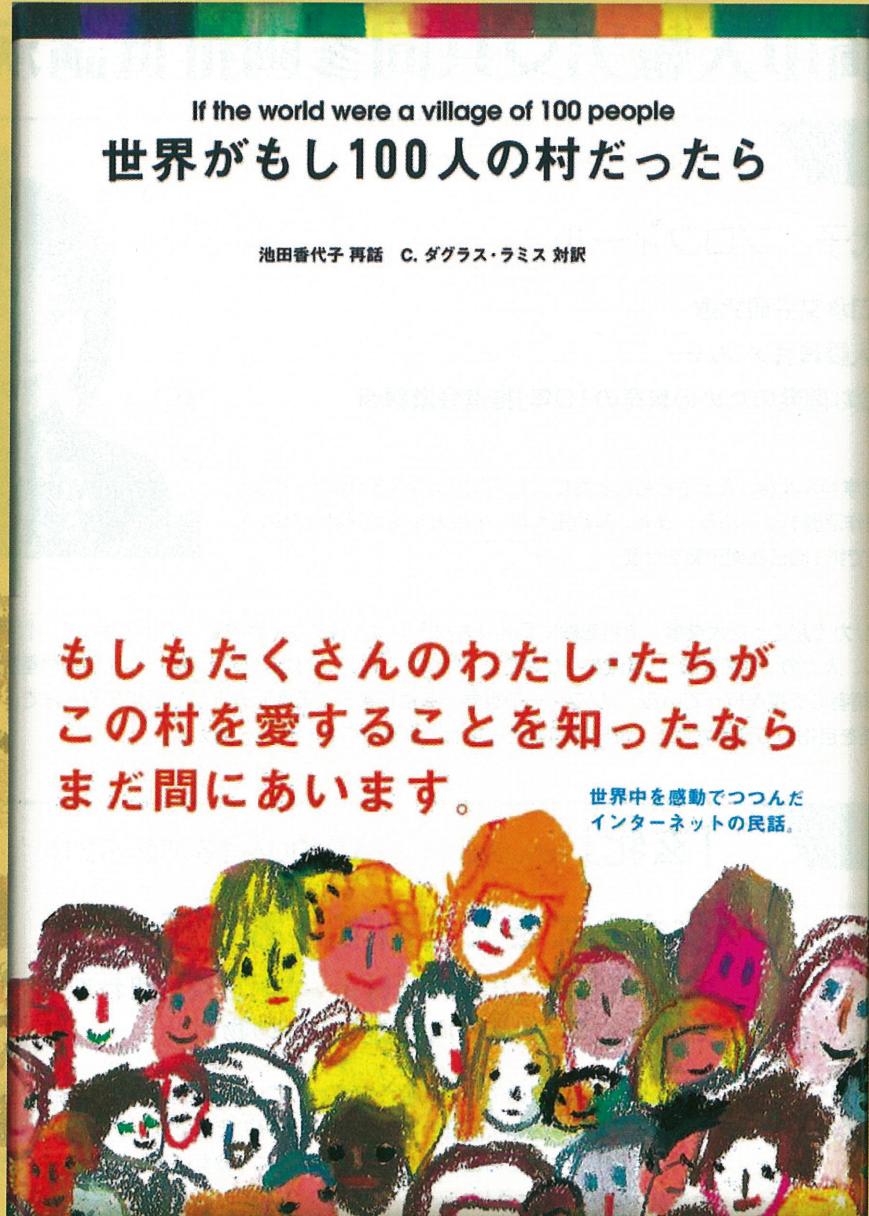


平成
23年度

岡崎市人権男女共同参画推進講演会



日時 平成23年6月25日土 開場 13:00
開演 13:30

場所 岡崎市図書館交流プラザ Libraホール

定員 260名 手話 要約筆記(第1部のみ)
託児あり(2歳以上 15名程度)
(全席自由)

第1部 13:30~14:45(75分)

講演会 講師 池田香代子
「100人の村 あなたもここに生きています」

人間の為・世界の為・幸せの為 何をしたらいいのだろう…
そんなあなたに今できることを伝えます。



第2部 15:00~16:32(92分)

映画会 「玄牝」(げんびん)

岡崎市の吉村医院を映画作家河瀬直美監督が撮影したドキュメンタリー映画。
人間とは、命とはを問いかけ、美しく、そして強い女性の神祕を映し出します。

選んで、生きる。



入場無料

駐車場は3時間まで無料

申し込み
方法

- 往復はがきに ①住所 ②氏名(ふりがな) ③電話番号 ④申し込み人数(4名まで) ⑤託児希望の場合は子供の氏名(ふりがな)・愛称・年齢を明記 ⑥1・2部参加/1部のみ参加/2部のみ参加を明記 ※但し、申し込み多数の場合、1・2部参加者を優先の上抽選
- 〒444-0059「岡崎市役所 文化活動推進課」まで2011年5月13日(金)必着で郵送 抽選結果は後日発送にてお知らせ

主催 / 岡崎市・名古屋法務局岡崎支局・岡崎人権擁護委員協議会・岡崎人権啓発活動地域ネットワーク協議会

お問合せ先 文化活動推進課 TEL 0564-23-3241

平成23年度 岡崎市人権男女共同参画推進講演会

第1部 講演会

13:30~14:45(75分)

● 講師 池田香代子 プロフィール

ドイツ文学翻訳家 口承文芸研究家

世界平和アピール七人委員会メンバー

ESD-J「国連持続可能な開発のための教育の10年」推進会議顧問

1948年 東京に生まれる。

1976年 東京都立大学人文学部独文学科卒業後、夫と子どもとともに、エアランゲン大学(旧西ドイツ)へ留学。帰国後、翻訳、著作活動をはじめる。また、早稲田大学、中央大学等で講師を務める。

1998年 『猫たちの森』(早川書房)で第1回日独翻訳賞を受賞



2001年9月11日、アメリカで起こった大惨事。それを機にアメリカがアフガニスタンに侵攻したことを見て、「世界がもし100人の村だったら」を出版し、人々の“平和を願う”意識を呼び起し、ベストセラーとなる。その印税で「100人村基金」を立ち上げ、NGOや日本国内の難民申請者の支援を行っている。「ソフィーの世界」をはじめとする翻訳家として活躍する一方で、1955年に核兵器廃絶と世界平和の構築を目指して発足された、世界平和アピール七人委員会のメンバーも務める。

第2部 映画会

「玄牝」 (げんぴん)

15:00~16:32(92分)



生まれてきてくれて ありがとう

河瀬直美監督 出演 吉村正 吉村医院に関わる人々
あるがままに、命と向き合う人々の物語

ぼんやりとした明かりが灯る畳の部屋。ここは母親の胎内に近い温度と湿度、そして光が保たれている。家族に見守られ、横たわる妊婦のそばでは、ひとりの医師が静かにその時を待っている。やがて新たな命と呼応するように、彼女は声をあげる——「きもちいい」「あったかい」「ありがとう」。

愛知県岡崎市にある吉村医院。木々がこんもりと生い茂る森の中にあるこの産科医院には、「自然に子を産みたい」と願う妊婦たちが、全国からやって来る。「不安はお産の大敵。ゴロゴロ、ピクピク、パクパクしないこと」。こう繰り返すのは同院の院長で、これまで2万例以上のお産に立ち会ってきた吉村正先生だ。お産は痛くて苦しいものだと思い続けていた人、初めての出産で経験した医療行為が辛い記憶になってしまった人……。それぞれの事情や想いを抱えながらも、臨月が近づくにつれ、彼女たちはいきいきと輝きはじめる。その様子を見守る家族や助産師の想い、そして、生まれてくる命だけでなく、生まれることなく消えてゆく命とも向き合う吉村先生の葛藤——現代に生きる私たちの強さと脆さ、喜びと悲しみ、怒りや平安がないまぜとなって、ひとつに結ばれていく。

ibra りぶら

岡崎市図書館交流プラザ

<http://www.ibra.okazaki.aichi.jp>

お問い合わせ先／

岡崎市図書館交流プラザ
〒444-0059 岡崎市康生通西4丁目71番地
TEL 0564-23-3241



古紙パルプ配合再生紙使用

